

一般質問

3月定例会

門 眞一郎 議員

Q交通インフラの整備は

道は経済を運ぶといわれている。国道54号は、その役割を新たな道に奪われるとともに、本町への恩恵も小さくなってしまったが、この道が本町の生命線であるということは揺るぎない事実である。

前町長は、松江道へのアクセス道整備で本町が陸の孤島にならぬよう尽力されたが、任期中の実現は叶わなかった。私は、国道54号の2つの老朽



晴雲トンネル

A積極的に要望

町長塚原隆昭

赤名峠と米子道、浜田道の3カ所が、集中的な大雪時には大規模な通行止めとなる可能性がある道として指定された。国は、防災・減災・国土強靱化の推進を進めているが、生活道が通行困難なままであっていいのかという考えもある。

国道54号改良は、松江尾道線の補完道としての機能を發揮するためにも、引き続き様々な機会を捉えて要望を続けなければならない。

尾道松江線へのアクセス道路は、広島県との県境を越えた道路の新設ということで、ハードルは高いと認識している。

今後も広島県、島根県、両県の関係自治体と協力して、要望活動を積極的に行っていく

Q生産インフラの刷新が必要

農家や農業法人は、長く続いたデフレによって経営体力を失い、投資が困難だ。

自力で投資を行い回収できるような力をつけるまでの間、町がインフラ刷新のための資本を投下し、生産性向上に注力して行かなければならないと考える。町長の見解はどうか。

A生業なりわいとなる農業を

町長塚原隆昭

私の基本理念は、生業となる農業を目指す。そして農業で生活できるような所得を上げていくということだ



圃場整備(花栗 門)

ある。これの実現のために、飯南米のブランド化、水田園芸による高収益作物への転換、農業の省力化、そして労働力を集積する組織の育成など進めていきたい。

生業となる農業、そして所得の向上にはコストの削減や生産性の向上は不可欠であり、農業者や関係機関と議論し、今後の農業の在り方や方向性を見出していきたいと思っている。

必要な施設整備、基盤整備、新たな技術導入、インフラ整備については、財源の確保に向け検討を進め、本町の基幹産業をしっかりと守って、持続できる農業の実現を目指していきたい。

Q前町長からの引継ぎは

①医師、看護師などの人材育成と、地域包括医療・ケアの充実。

②本町の福祉施設の在り方には、町も加わり検討が必要。

③少子化が進む中、学校統合を含め、子どもの教育に心配をされている保護者の方々に対して「本町の学校教育はこうします」といったメッセージの発信。

④iまるシェ及び、琴引フォレストパークスキー場に求められる、採算ベースへの移行と経営健全化などをどのように受け止め、今後の町政に取り組むのか。



琴引フォレストパークスキー場

Aきちんと受け止め対応をする

町長塚原隆昭

①地域医療・福祉の充実には絶対守って行かなくてはならない。

医師体制は、現体制の維持ができるよう、県や島根大学・関係病院との信頼関係を堅持し、医師確保に努める。

看護師は、医療従事者確保対策事業で確保できる見込みだ。薬剤師、臨床検査技師などの職種は充足できていないが、募集できていない。

福祉・医療だけではなく、地域包括ケア推進局や行政部署、住民の皆様と一体となつて、飯南町らしい地域包括医療・ケアの推進を進める。

②町内には多くの高齢者福祉施設があり、事業主体も様々な形態がある。町全体の施設の在り方は福祉施設協議会と協議をしているが、結論には至っていない。次期介護保険計画には盛り込む必要がある。

③今後の飯南町の子供の教育に対する不安を払拭するため、明確なメッセージの発信は大事。今後関係者と議論を重ねる。

統合問題は現実をとらえて

の検討ではなく、まず子どもを増やし数の確保をする。

④iまるシェはコロナ禍の中、産直部門の販売実績は前年を上回っている。阪急オアシスに出荷ができなくなった生産者も、iまるシェに出荷することで減収分をいくらか補えている。存続に向けて考えているが、経営改善が見込まれなければ、抜本的対策も必要だ。

琴引フォレストパークスキー場は、島根国体開催に向け人工雪で安定したグレンデ環境が提供でき、選手育成支援の場として、県にも理解していただいている。

アルペン練習競技場、クロスカントリーのコース整備など、県の財政支援を含め今後努めて参りたい。

15年間の存続(令和15年3月)を考え施設整備をしているが、経営の専門家と運営計画を検討し存続に努める。

一般質問

3月定例会

高橋 英次 議員